

令和 6 年 6 月 11 日現在

機関番号：32621

研究種目：基盤研究(C) (一般)

研究期間：2020～2023

課題番号：20K00423

研究課題名(和文) 18世紀大覚醒期における環大西洋印刷文化—人種、宗教と文学テキスト

研究課題名(英文) Transatlantic Print Culture and the 18th-century Great Awakening

研究代表者

増井 志津代(MASUI, Shitsuyo)

上智大学・文学部・教授

研究者番号：80181642

交付決定額(研究期間全体)：(直接経費) 2,200,000円

研究成果の概要(和文)：研究期間がコロナ禍と重なり目的とした海外調査実行に支障が生じたものの、最終年度夏季休暇中、ニューヨークとボストンへ調査旅行に赴いた。NYブルックリン地区で、H. W. ビーチャーのプリマス教会を訪問した。ここには、H.W. ビーチャーやH. B. ストウに関する展示物や資料が保管され、閲覧することができた。教会は逃亡奴隷援助を目的とする「地下鉄道」の「駅」でその痕跡が残っている。ブルックリン島は、海岸からのポートによる逃亡奴隷輸送が可能で、逃亡援助に適していた。さらに、ボストンに赴きハーヴァード大学で調査。D. ホール、J. チャプリン、A. & O. パタソン教授等と再会、交流の機会を得た。

研究成果の学術的意義や社会的意義

研究期間後半では、J. エドワーズやG. ホイトフィールドによる18世紀信仰復興運動を継承する19世紀第二次大覚醒運動をテーマとした。パンデミックが落ち着き始めた為、研究延長を申請し念願の海外リサーチに赴いた。ニューヨークではH. W. ビーチャーが牧師を務めたブルックリン、プリマス教会を訪問し、奴隷制廃止運動とキリスト教の関わりについて調査した。次にケンブリッジ(MA)へと移動し、ハーヴァード大学図書館でリサーチを行った。研究協力者、D. ホール、J. チャプリン、O&A. パタソン教授等、同大学研究者との再会ができた。国際的な研究交流を今後も継続し、後身へと繋いでいくことを願う。

研究成果の概要(英文)：Although this entire research project has been conducted during the Corona pandemic, I was able to visit New York and Boston in the summer of 2023 to finalize this project. In New York, I stayed in Brooklyn and visited Henry Ward Beecher's Plymouth Church. This church functioned as one of the important "stations" of the underground railroad and helped slaves from the South to escape from their bondages. Plymouth Church still preserves the remains of a "station" where slaves from the South were rescued. I was also able to confirm how convenient for the abolitionists to rescue slaves from the South in Brooklyn. Since the whole area was an Island, it was possible for cargo boats to anchor and send slaves safely using the ports on Brooklyn Island. I also visited Boston/Cambridge to conduct research at Harvard libraries and met Prof. David D. Hall, J. Chaplin, Anita & Orlando Patterson.

研究分野：American Literature and Religion

キーワード：Abolitionist movement Christianity Beecher Gender Race Ethnicity Second Great Awakening

科研費による研究は、研究者の自覚と責任において実施するものです。そのため、研究の実施や研究成果の公表等については、国の要請等に基づくものではなく、その研究成果に関する見解や責任は、研究者個人に帰属します。

1. 研究開始当初の背景

「18世紀大覚醒期における環大西洋印刷文化 人種、宗教と文学テキスト」は、ジョナサン・エドワーズ (Jonathan Edwards, 1752-1817) とジョージ・ホイットフィールド (George Whitefield, 1714-1776) に注目し、その活動の特徴を追跡すると共に、両名がリードした植民地時代アメリカの信仰復興運動がもたらした影響に注目した。マサチューセッツ植民地の内陸部ノーサンプトン教会牧師であったエドワーズは、自身が牧会する教会の近隣に住まい、比較的限定された植民地北東部で活動した。他方、ホイットフィールドは、オクスフォード大学の学生時代、ジョン・ウェスレー (John Wesley, 1703-1791)、チャールズ・ウェスレー (Charles Wesley, 1707-1788) と共にメソジストの活動に参加し、ウェスレー兄弟が開始した北米植民地ジョージアにおける宣教活動を継承する。大西洋を幾度も航海し、その両岸で宣教活動を行った。

18世紀、西インド諸島に赴いた英国人移住者には、独身男性が多くジョージアには植民に失敗した移住者が移り住む傾向があった。ホイットフィールドが開始した孤児院ベテスタは、こうした移住者たちが遺棄した子供を保護し、教育する場となる。

雄弁な説教者ホイットフィールドは、ジョージアでの活動を北東部の海岸地域へと拡大する。行く先々で多くの聴衆を集めたホイットフィールドに注目したベンジャミン・フランクリン (Benjamin Franklin, 1706-1790) は、その説教を冊子にして販売し、宣教活動を援護すると共に、印刷出版で利益を得た。こうした宣伝活動もあり、ホイットフィールドの宣教活動は、エドワーズの宣教と共に、「大覚醒 (Great Awakening)」と呼ばれる植民地信仰復興運動へと展開する。本研究では、大西洋の両岸を往復しながら活動したホイットフィールドと、ニューイングランド地域に留まりながら、説教と出版活動により「大覚醒」と、その後のキリスト教宣教の展開に影響を与え続けたエドワーズを中心にリサーチを行うこととした。

2. 研究の目的

当初は、エドワーズやホイットフィールドへの注目と共に、ペンシルヴァニアにおけるモラヴィア派教会のリサーチも予定していた。モラヴィア派の人々が移住し、宣教拠点としたペンシルヴァニア州ベツレヘムでの、アーカイヴ調査を目的に入れていたものの、計画していた調査旅行は、コロナ禍の影響により、実現が困難となった。結局、最終年度の2023年夏に渡米が可能となった。しかしながら、ベツレヘムのモラヴィア派図書館訪問は叶わず、ニューヨークとボストンで調査研究を行った。特に、ブルックリンでプリマス教会 (Plymouth Church) を訪問できたことはこのプロジェクトの最終年度にふさわしかった。米国滞在中の研究拠点はハーヴァード大学とし、図書館やアーカイヴでの調査と共に、研究協力者と交流を再開することができた。ハーヴァード大学神学部の David D. Hall 教授、歴史学部の Joyce Chaplin 教授、同大学社会学部教授で、ニューヨークの国連で、人種と労働問題、特に “Modern Slavery” と呼ばれる、労働市場における人身売買に関する調査研究を実施中の Orlando Patterson 教授、ボストン大学英文学 Anita Patterson 教授等、米国側の研究協力者全員と再会を果たし、情報交換を行うことができた。ベツレヘムのモラヴィア派教会、モラヴィア派アーカイヴ訪問は、今回は実行できなかったが、現地在住者の協力申し出があったので、今後の目的に入れたい。

3. 研究の方法

研究のために図書館、アーカイヴ訪問調査を主とする渡米を願っていたが、コロナ禍の移動制限が生じ、当初の計画を遂行することは困難だった。そのため、日本国内で入手できるデータベースを用いることとした。初期アメリカ研究のための優れたデータベース、Evans Collection を上智大学図書館が2023年に導入したことで、第一次資料データの調査が大学を通して可能となり、大変、助けられた。海外渡航については、科研費延長を申し出て許可され、ニューヨークとケンブリッジ、ボストンで訪問調査を実施することができた。

ニューヨーク、ブルックリンでは、研究対象であるビーチャー家について調査することができた。具体的には、ヘンリー・ウォード・ビーチャー (Henry Ward Beecher, 1813-1887) が牧師を務めたプリマス教会を再訪した。展示室で資料を閲覧すると共に、教会内部に残されている「地下鉄道」(underground railroad) の「駅」(station) を再確認することができた。教会の庭には、礼拝に参加したことのあるリンカーン大統領 (Abraham Lincoln, 1809-1865) のレリーフが刻まれた壁があり、この教会が19世紀の奴隷制即時撤廃運動に積極的に関わったことが示されている。また、会堂内の座席には、リンカーンの他に、奴隷制廃止論者として活躍した元奴隷フレデリック・ダグラス (Frederick Douglass, 1818-1895) が訪問時に着席した座席に銘が刻まれて残されている。こうした史跡から、この教会が奴隷制即時撤廃運動 (Abolitionist Movement) の、ニューヨーク地域における拠点の一つとなっていたことが伺える。

カトリック移民が多く居住したブルックリン地区であるが、カトリック、プロテスタントの区別なく、この教会の礼拝に集まったと言う。カトリック信徒である移民の場合は、マンハッタンのセント・パトリック聖堂 (St. Patrick Cathedral) に通常は赴いたのだが、ビーチャーが牧会する教会は、ブルックリン在住のカトリック移民にとって通い易い近隣教会となり、地域の新移民が参加した活気ある教会となった。

その後、ボストンに赴き、ケンブリッジに滞在。ハーヴァード大学での調査や研究交流が再開できたことは大きな収穫であった。

4. 研究成果

2020年度はアメリカ学会年報『アメリカ研究』に「第一次大覚醒運動と18世紀印刷文化：メソジストと人種」を投稿し、掲載された。さらに、上智大学アメリカ・カナダ研究所発行の *The Journal of American and Canadian Studies* の Volume37 に、研究論文 “*The Blithedale Romance and the Lore of the ‘Haunting Margaret-Ghost’*” が掲載された。初期アメリカ学会で招待講演として、「初期アメリカの人種と宗教 Oludah Equiano, “The Interesting Narrative” を中心に」の発表を行った。本研究の成果は、初期アメリカ学会、ホーソーン協会などで発表報告し、学会誌や共編著書に論文やエッセイとして寄稿した。

2021年度も海外調査に赴くことができず、国内での研究継続となった。Zoomを用いて、国内外での研究交流を図ることができた。同年5月14日、四大学アメリカ研究所共催で、「岩波 シリーズ アメリカ合衆国史」(全4巻)の合評会をZoom開催した。第一次合評会は上智大学アメリカ・カナダ研究所で主催した。2022年2月24日にZoom開催された “Virtual Roundtable on David D. Hall’s “The Puritans: A Transatlantic History” (米国 American Society of Church History 主催)に参加した。海外渡航が困難な中、Zoomを利用した研究会に参加し、国際交流を行うことができた。ミネルヴァ書房や丸善によるアメリカ研究関連の出版企画に原稿を2本提出した。幾つかの論文は、コロナ禍のために出版が遅れてしまった。研究交流は、Zoomを通じて国際的に実施することができた。

2022年は、学会活動に積極的に参加した。6月5日、中央大学で開催されたアメリカ学会年次大会「部会(B) アメリカの無宗教を考える」でコメンテーターを務めた。また、初期アメリカ学会例会で、Zoomを用いて研究交流を継続することができた。Yamaguchi Yoshinari氏による英文著書 *American History in Transition: From Religion to Science* の書評をアメリカ文学学会年報『アメリカ文学研究』に掲載した。さらに、小倉いずみ著『トマス・フッカーとコネチカット』(金星堂)の書評がアメリカ学会会報に掲載された。『改革が作ったアメリカ—初期アメリカ研究の展開』(小鳥遊書房)出版に編著者として参加し、「ジョナサン・エドワーズ『忠実なナラティヴ』における少女たちの回心」を寄稿した。

パンデミックの為、海外研究調査がなかなか実行できなかったものの、2023年9月にニューヨーク、ボストン、ケンブリッジを訪問し、研究協力者の David D. Hall、Joyce Chaplin、Anita Patterson、Orlando Patterson と久しぶりに面談し、研究交流を持つことができた。ハーヴァード大学ワイドナー図書館、神学部図書館でリサーチを再開し、海外渡航を実行できたことは大きな成果である。

以上

5. 主な発表論文等

〔雑誌論文〕 計8件（うち査読付論文 5件/うち国際共著 0件/うちオープンアクセス 4件）

1. 著者名 増井志津代	4. 巻 16
2. 論文標題 アメリカにおけるピューリタニズム研究	5. 発行年 2022年
3. 雑誌名 ピューリタニズム研究	6. 最初と最後の頁 86-96
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 増井志津代	4. 巻 (208)12
2. 論文標題 書評：小倉いずみ著『トマス・フッカーとコネチカット』（金星堂）	5. 発行年 2022年
3. 雑誌名 日本アメリカ学会会報	6. 最初と最後の頁 2
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 増井志津代	4. 巻 58
2. 論文標題 書評：Yoshinari Yamaguchi, American History in Transition: From Religion to Science	5. 発行年 2022年
3. 雑誌名 日本アメリカ文学学会年報『アメリカ文学研究』	6. 最初と最後の頁 38-42
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 増井志津代	4. 巻 58
2. 論文標題 (書評) Yoshinari YAMAGUCHI, American History in Transition: From Religion to Science	5. 発行年 2022年
3. 雑誌名 日本アメリカ文学学会、2021年度「アメリカ文学研究」第58号（日文号）	6. 最初と最後の頁 38-42
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 -

1. 著者名 増井志津代	4. 巻 16
2. 論文標題 (書評論文) アメリカにおけるピューリタニズム研究 (1950-2020)	5. 発行年 2022年
3. 雑誌名 日本ピューリタニズム学会「ピューリタニズム研究」	6. 最初と最後の頁 1-11
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 増井志津代	4. 巻 54
2. 論文標題 第一次大覚醒運動と18世紀印刷文化: メソジストと人種	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 アメリカ学会年報「アメリカ研究」	6. 最初と最後の頁 21-43
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 Masui, Shitsuyo	4. 巻 37
2. 論文標題 The Blithedale Romance and the Lore of the "Haunting Margaret-Ghost"	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 The Journal of American and Canadian Studies"	6. 最初と最後の頁 31-64
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 増井志津代	4. 巻 87
2. 論文標題 初期アメリカの人種と宗教—Olaudah Equiao, "The Interesting Narrative"を中心に	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 初期アメリカ学会ニューズレター	6. 最初と最後の頁 1-4
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

〔学会発表〕 計1件（うち招待講演 1件 / うち国際学会 0件）

1. 発表者名 増井志津代
2. 発表標題 「初期アメリカの人種と宗教—Olaudah Equiano, "The Interesting Narrative"を中心に
3. 学会等名 初期アメリカ学会第83回例会（招待講演）
4. 発表年 2021年

〔図書〕 計3件

1. 著者名 遠藤泰生、小田悠生（編著）野口久美子、伏見岳志、森丈夫、増井志津代、山中美潮、鰐淵秀一、笠井俊和、橋川健竜、久田由佳子、平井康大、杉山直子、加藤（磯野）順子、小林剛、中野耕太郎、小檜山ルイ、荒木純他（分担執筆）	4. 発行年 2023年
2. 出版社 ミネルヴァ書房	5. 総ページ数 390
3. 書名 初めて学ぶアメリカの歴史と文化	

1. 著者名 佐久間みかよ、橋川健竜、増井志津代、小倉いずみ（編著者）、森本あんり、森丈夫、塚田浩幸、矢島宏紀、荒木純子、大島香子、皆川祐太、星野文子、鰐淵秀一、笠井俊和、和田光弘、遠藤寛文、天野由莉、佐野陽子、大野美砂、田辺千景、白川恵子、大西直樹（著者）	4. 発行年 2023年
2. 出版社 小鳥遊書房	5. 総ページ数 302
3. 書名 改革が作ったアメリカ—初期アメリカ研究の展開	

1. 著者名 相川裕亮、赤木保憲、赤江達也、中村唯史、那須輝彦、西能史、増井志津代、大塚寿朗、荒木純子、他	4. 発行年 2022年
2. 出版社 丸善出版	5. 総ページ数 757
3. 書名 キリスト教文化事典	

〔産業財産権〕

〔その他〕

-

6. 研究組織

	氏名 (ローマ字氏名) (研究者番号)	所属研究機関・部局・職 (機関番号)	備考
--	---------------------------	-----------------------	----

7. 科研費を使用して開催した国際研究集会

〔国際研究集会〕 計0件

8. 本研究に関連して実施した国際共同研究の実施状況

共同研究相手国	相手方研究機関
---------	---------